

# 足立区のお知らせ

足立区千住一丁目50  
☎ 882-1111

地震対策特集



### ■木造過密地区に最重点

最近、「関東大震災なみの地震が、再び襲ってくるのでは…」という地震学会等の話題が、マス・コミなどで報じられていますが、これに対する基本的な防災対策は、国をはじめ、都・区が連携して推し進めています。

しかし、地震はいつ起こるかわかりません。区ではこの点を重くみまして、独自の立場から当面の緊急対策として、家屋の密集した地域に、消火器を配備することにしました。その配布作業も、町会・自治会のみなさんご協力により、このほど完了しました。

ただし、まだ家がまばらで空地の多い地域や耐火構造の団地で、延焼の恐れのない地域は、今回は配布対象から除きました。

### ■100メートルごとに1か所

商店や木造家屋の非常に密集した地区では、一度火災が発生しますと延焼しやすく、人命に及ぼす危険度も非常に高いわけです。

そこで、地震による石油ストーブからの出火率(想定)を基準として、平均100世帯に1本の割合で消火器を配備しました。今回は、全部で約2,000本ほどです。

したがって、木造家屋の特に密集した地域では70~100メートルごとに消火器を備えました。

### ■普通火災は「強化液式」、油火災に強い「粉末式」

もし、火災が発生してしまったら、火が小さいうちに消すことがたいせつです。

今回配備した消火器は、二種類あります。一つは、木造家屋の延焼防止と一度消した火が再び燃えださないようにする力のすぐれた「強化液式」と、油やガスの火をたちまち消してしまう「粉末ABC式」とです。

この二つの消火器は、街角に備え付けた「消火器箱」の中に、交互に配置されています。消火器箱は、赤く塗った鉄製のものですから、あなたの家の近所では、どこにあるか、よく確かめておきましょう。

### ■消火器の管理はみなさんで

今回お配りした消火器は、みなさんの町会・自治会にさしあげたものですから、その管理は、みなさんの手をお願いします。そして、いざというとき、だれでも使えるよう、その取り扱い方を知っておきましょう。

### ■消火器の取り扱い方

消火器箱のフタは、取っ手を右上に回せば開きます。消火器の操作は、右の図をご覧ください。

※ 消火器があっても、それが使えなければなんにもなりません。区では、順次地区ごとに消火器の使い方火の消し方の訓練を行ないます。その際は一人でも多く参加して、正しい使い方を覚えてください。

## 消火器の使い方

### 粉末式



■放射は掃くように  
放射するときは、風上から火元に近づき、掃くようにして消火します。

### 強化液式



### 強化液式(大型)

### 粉末式(小型)



- ▶ ホースやノズルがつまっていないか。
- ▶ キャップなど、ねじ部がゆるんでいないか。
- ▶ 容器の変形、ふしよくなどがないか。



# 地震が起きたら

## ■まず“火”の始末



- ▶関東大地震のとき、約10万人の死者が出ましたが、そのほとんどは、火災のためでした。
- ▶十勝沖地震では、使用していた石油ストーブの1.3%から出火しました。これを都内の冬の夕刻にあてはめてみると、都内の全ストーブの7割を使用していたとして、約3万件の火災が発生することになります。

## ■あわてて外に出ない



- ▶えびの地震では、洋服ダンスまでが倒れ、全半壊家屋が約1,000戸ありましたが、木造家屋は、一瞬でベシャンコにつぶれたものではありません。
- ▶十勝沖地震では、あわてて外にとび出したため、落ちてきたコンクリートなどのかけらにあたって、死んでしまったり、重傷を負ったりした人が、たくさんいました。また、重傷者の80%までが、階段のふみはずでした。

## ■消火はみんなで協力して

- ▶自分の家はもちろん、隣り近所から出火してしまったら、「火事だ！」と大声で叫び、みんなで協力して消火しましょう。



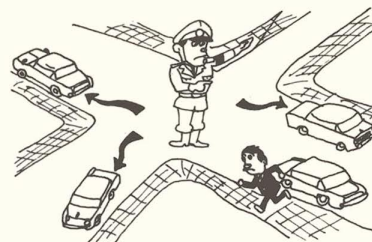
## ■避難は歩きで



- ▶えびの地震では、町の人たちがいっせいに自動車避難をはじめたため、道路が大混乱となり、ふつう30分で行ける隣町まで、2時間以上もかかってしまいました。人口3万人ほどの町でこうですから、自動車が200万台以上も走っている東京では、その混乱状態は、目にみえています。避難は、必ず歩きで。

## ■自動車を運転中は

- ▶道路の左側に車を寄せ、エンジンを止め、キーは、つけたままにしておく。
- ▶ラジオで状況を聞き、避難するときは、現場の警察官の指示にしたがって行動する。
- ▶環七通り以内の全道路は、一般車両の通行は禁止となります。



## ■デマにまどわされない

- ▶関東大地震のとき、火災が起きたり、人心が不安となって大混乱が起きたのは、大部分がデマにまどわされ、勝手な行動にはしたため、といわれています。無責任な言動は、つつしみましょう。

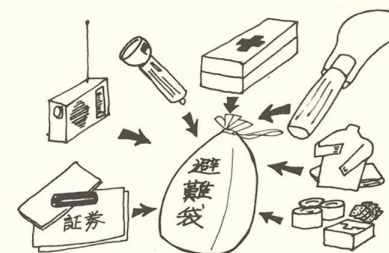
# ふたんの心がまえ

## ■わが家の防災対策を



- ▶万一のとき、家具が倒れたり、棚のものが落ちないように、ふだんからくふうしておく。
- ▶火災の原因となりそうな薬品、石油、シンナーなども、震動で倒れないようにしておく。
- ▶石油ストーブ、プロパンガスボンベ、消火器も針金やじょうぶなひもで固定しておく。十勝沖地震では倒れた消火器(泡沫式)は、使えませんでした。

## ■非常持出品



- ▶非常時の場合、当座の必要品は、すぐ持ち出せるようまとめておく。(現金、貴重品、非常食糧、水、懐中電灯、トランジスタラジオ、医薬品、下着類)

## ■連絡方法を決めておく

- ▶とりあえずの避難先や大火災時の避難場所、連絡方法などを、家族みんなで決めておく。新潟地震では電話も不通になり、家族どうしが安否を気づかい、大混乱の原因の一つになりました。

## ■避難場所を確認しておく

- ▶いざというとき、逃げまどわないよう、自分の地域の避難場所を実際に歩いて確認しておく。その際避難路の交通状況や建物等の現況も知っておく。

### 【区内の避難場所】

- ▶千住地区に住んでいる人は…西新井橋を渡って、荒川上流の左岸河川敷一帯へ。
- ▶小台・宮城・新田地区に住んでいる人は…荒川右岸の河川敷一帯へ。
- ▶荒川以北(提北)に住んでいる人は…舎人・入谷・伊興・花畑地区など、足立区の北部一帯へ。

# 消火器の備えを

- ▶あなたの家庭に消火器を備えてありますか—。火災は、初めの数分間で消すことがたいせつです。一般の家庭で備える消火器は、倒れてもさしつかえない、しかも有効年限の比較的長い「ABC粉末式消火器」がよいでしょう。その値段は……小型= 3,000円~ 3,500円位 中型= 8,000円~ 8,500円位 大型= 13,000円位

## ■隣り近所で防災訓練を

- ▶北海道の人たちは、毎年2回震災訓練をしていたため、十勝沖地震では、比較的被害が少なく済んだそうです。